

# エビの眼柄切除

暫定的指標

2023年3月～4月

Aquaculture Stewardship Council  
[www.asc-aqua.org](http://www.asc-aqua.org)



Shrimp, Thailand

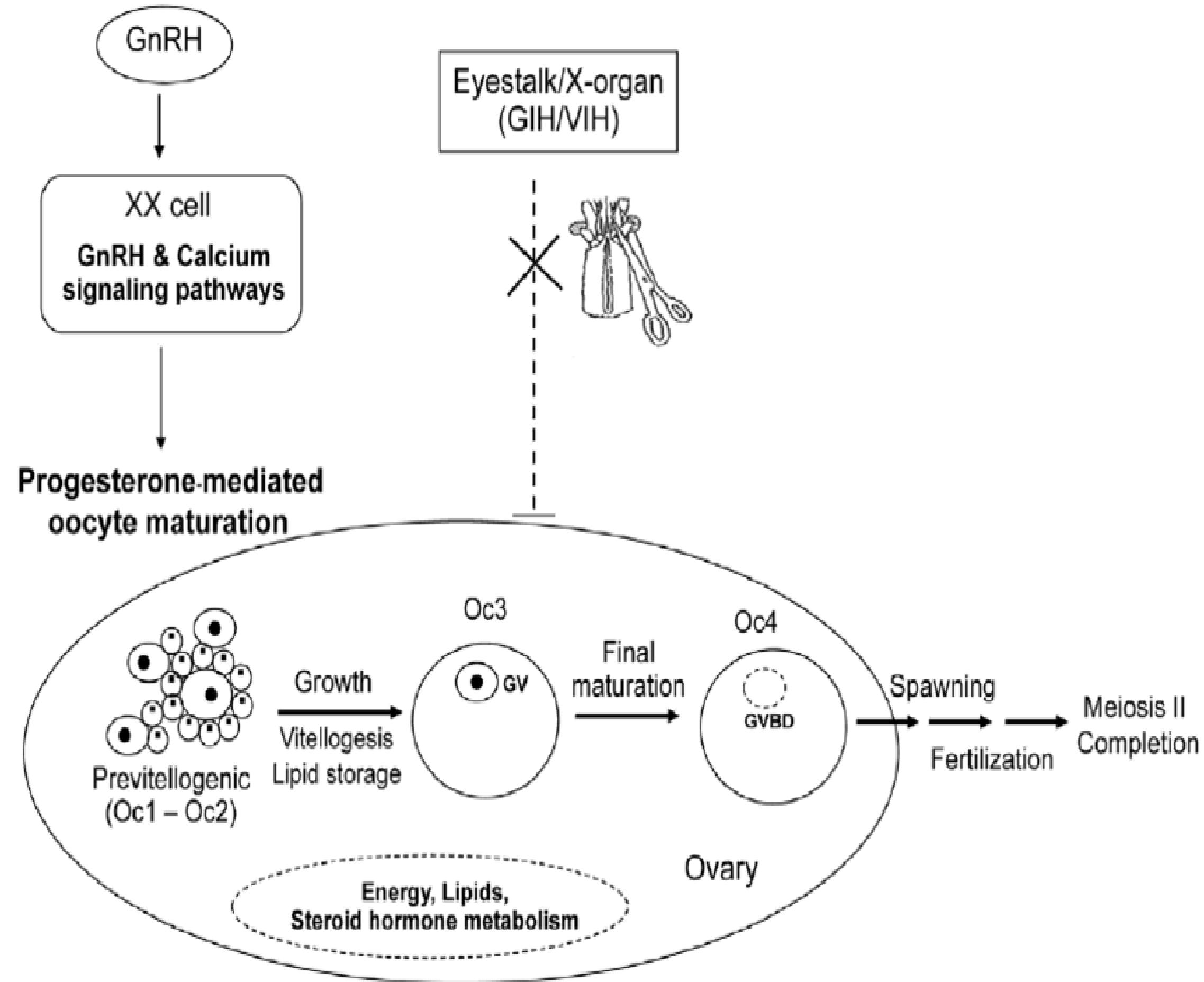


# 懸案

ASC養殖場基準の初版では、エビの健康と福祉を定める範囲が限られています。それをより広く網羅するため、エビの技術作業部会 (TWG) が設立されました。これによって状況は改善されつつあり、遅くとも最初の改訂時までには、新項目を養殖場基準に追加する見込みです。

一方、より優先順位が高く、基準の初版に追加する必要があるとされる項目があります。エビの眼柄切除です。

# 検討事項

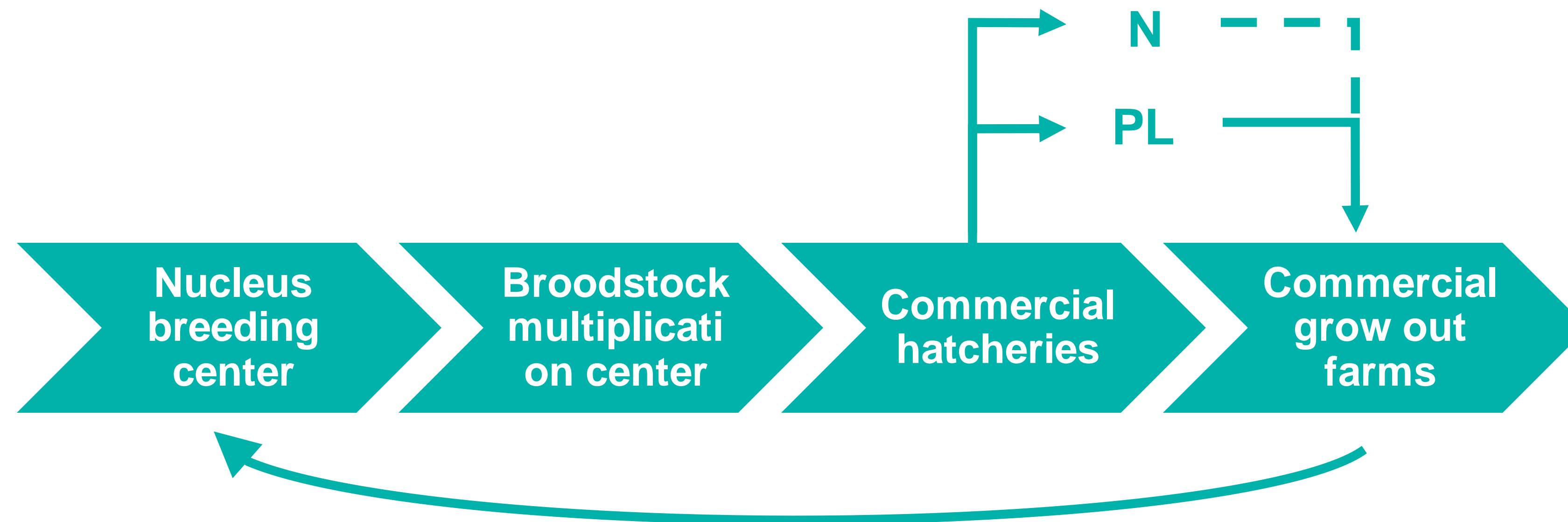


- メスのエビをホルモン操作することで、急速な成熟と産卵を誘導するために広く行われている慣行。
- 苦痛とストレスにつながる切断の一形態
- 眼柄切除なし (Ablation Free : AF)にエビを生産する手法が、バナメイエビ (*L. vannamei*) に適応可能であることが最近の研究で示唆されている
- ブラックタイガー (*P. monodon*) については、依然として知見が限られている

Uawisetwathana, Umaporn & Leelatanawit, Rungnapa & Klanchui, Amornpan & Prommoon, Juthatip & Klinbunga, Sirawut & Karoonuthaisiri, Nitsara. (2011). 「ブラックタイガーシュリンプの卵巢成熟を誘導する目の切除メカニズムに関する洞察 (Insights into Eyestalk Ablation Mechanism to Induce Ovarian Maturation in the Black Tiger Shrimp)」. PloS one. 6. e24427. 10.1371/journal.pone.0024427.

- エビの眼柄切除せずに生産する手法（AF生産）には、利点と欠点の両方があります

種親の生存率が向上する	成熟・産卵頻度が減少する
種親の繁殖寿命が延びる	幼生の総生産量が減少する
幼生（N）と後期幼生（PL）で育成力が向上するという認識	より多くの種親が必要となるため、コストが増加する



- エビの生産サイクルにより、認証機関（UoC）のAF PL取得能力は大きく変動する可能性があります。これは地域差と、AF幼生（N）および稚エビ（PL）が国内市場で広く入手可能かどうかによります。
- このような違いは、指標を作成する際に考慮されるべきでしょう。

# 提案された指標

対象範囲：バナメイエビ

すべての幼生、稚エビ（PL）がAFの親に由来すること。以下のスケジュールが適用されます。

- 基準発効日（2025年第2四半期）：生産量の25%をAFの親由来とする。
- 基準発効日から2年後（2027年第2四半期）：生産量の50%をAFの親由来とする。
- 基準発効日から4年後（2029年第2四半期）：生産量の75%をAFの親由来とする。
- 基準発効日から6年後（2031年第2四半期）：生産量の100%をAFの親由来とする。

# 次のステップ

コンサルテーション用の質問：

- 1) エビの眼柄切除はあなたにとって関心のあるテーマですか？
- 2) 養殖エビの取り扱いがありますか？ ある場合は、どの種ですか？
- 3) 提案された指標は、眼柄切除が抱える問題の十分な解決に適していますか？
- 4) 提案されたスケジュールは適切ですか？ 適切でない場合は、その理由を説明し、代替案を提案してください。
- 5) ブラックタイガー (*P. monodon*) も対象範囲に含めるべきですか？





ご協力ありがとうございました

Aquaculture Stewardship Council  
[www.asc-aqua.org](http://www.asc-aqua.org)

Shrimp, Thailand